



1. ハロヨーン。5色入りで箱ごとにカラーは異なる。箱も環境に配慮されたパッケージ  
2,3. 一本一本の色合いは「原料」となるコスメによって異なる。唯一無二のカラーが魅力だ



## 使い切れなかったカラーコスメをクレヨンに 美容業界ゴミゼロを目指すプロジェクト

### COSME no IPPO

「COSME no IPPO」は最後まで使い切れなかった化粧品をクレヨンとして生まれ返らせるアップサイクルプロジェクトだ。

「以前から環境問題については強い関心を抱いていましたが、8年前、第一子誕生のタイミングで、子供たちや若い世代に対して、美容業界ができることがあるのではという想いをより強く抱くようになりました」そう語るのには、PR会社、化粧品販売会社等を経て、2018年から美容PRとして活躍する大澤美保氏。大澤氏は以前から、コスメを使いきれずに罪悪感を抱きながら捨てるという選択肢を取ることや店頭でのテストやシズナルコスメなどの売れ残った化粧品を廃棄されている状況について問題意識を抱いていた。

「独自のカラーと様々な特徴を持つ役割を終えたコスメがクレヨンに生まれ変わり、楽しんで使ってもらえたら」そう考えた大澤氏はクレヨンを製造している企業と出会い、かねてから付き合いのある企業に呼びかけ不要コスメを回収。昨年10月に、「アッシュ・ペー・フランス」主宰の合同展示会「rooms」に「COSME no IPPO」プロジェクトとカラーコスメから生まれたクレヨンが初お披露目される運びとなった。

このクレヨンは後に「HELLOYON（ハロヨーン）」と名付けられ、ファ

ッションビルのABABUENO、ビューティセレクトショップのフルーツギャザリング、百貨店の松屋銀座、阪急うめだなど様々な企業・店舗とのコラボイベントも実施。例えば、4月22日〜5月31日にかけてエキュート品川のフルーツギャザリングの店舗で実施されたイベントでは273点のコスメが回収された。またルミネ池袋で4月30日から5月5日に開催された「ルミネ池袋 Sustainable to Art」イベントではアーティストの久保田珠美氏がアートライブイベントにて、ハロヨーンを使って子供たちも共に絵を描くというコラボワークショップを行った。

ABABUENOでは1月から2月にかけて実施した回収キャンペーンでは約200名が参加し、この7月7日〜7月31日には再度、不要コスメの回収やワークショップのイベントを実施。また通常、オンラインショップでのみ販売されている「ハロヨーン」も販売された。なお「ハロヨーン」については現在、約12cmのクレヨン5色のセットを税込1980円で販売し、購入者が徐々に増えている。「アートを楽しんでいただくと共に、環境問題について改めて考えるきっかけとしていただけたら」と語る大澤氏。ハロヨーンがコスメ業界の未来をカラフルに塗り替えていくことに期待したい。